

私は2023年2月まで約8年間「大阪労山ニュース」の編集を担当していました。2023年3月からは諸事情で「大阪労山ニュース」は連盟事務局に編集をお願いすることになりました。しかし、このような事情も、「大阪労山ニュース」は以前のような形態で定期的にしっかり発行することができて良かったと考えています。

「大阪労山ニュース」はおおまかにVOICE、表紙&表紙裏、理事会議事録、専門部のページ、山岳登山の世界、編集後記で構成されています。私の8年間の編集担当時代とこの3年間でなかでも反響があったのは、VOICE、表紙&表紙裏、山岳登山の世界でした。今回は表紙について私なりに考えたことを少し書いてみようと思いました。

表紙の写真は「OWAFの登山情報なども参考にして写真を掲載するように努めた。会員の方からの写真提供もお願いした。山、自然や四季の風景を主体にした写真も優先した」、などを考えて編集をしました。

表紙の写真は、その月ごと連盟関係の行事に対応したもの、会山行の山の風景など撮影者の個性がリアルに表現されていました。この一年の表紙の写真を列挙してみると、八ヶ岳・硫黄岳、綾部市老富ミツマタ群落、八方尾根、久住山、平和行進、唐松岳、能登半島地震ボランティア支援活動、子どもの冒険学校、涸沢岳、ヒマラヤトレッキング、愛宕山、六甲イヤガ谷東尾根でした。いずれも各専門部の行事やクラブ、個人山行のとおきの風景が楽しく伝わってきました。

クラブ・会の山行報告の写真は4題、八尾山の会と吹田労山から投稿がありました。八尾山の会は、久住山、唐松岳、涸沢岳、いずれも山頂付近で撮影した集合写真はみんな笑顔で楽しそうです。なかでも久住山は女性9名で登られ、山行報告も掲載され、坊がつるで「坊がつる賛歌」を大合唱するなど楽しい登山が伝わってきました。唐松岳の八方大池やご来光の写真も美しいです。

井上敦子さんの冬の硫黄岳も美しいです。10年以上前、冬の硫黄岳～赤岳縦走を思い出します。赤岳鉱泉のテント場ではマイナス20℃で夜間にシュラフ横に置いていたペットボトルの水が凍ってしまいました。冬の八ヶ岳は厳寒のルートです。

5月号の3月下旬のミツマタ群落は見事でした。実は今年の3月下旬、泉州労山で綾部市老富のミツマタを企画しましたが、何と地元の熊対策で閉園となり、企画は中止になりました。老富地区での熊出没情報はありませんが、万が一熊出没の場合、高齢者が多い地元の人たちで対応できない、というのが閉園の理由です。来年にはこの一年の様子をみてできれば開園できるように考えていきたいそうです。私の知る範囲で全国屈指のミツマタ群落が来年には再開されることを期待しています。

大西の個人的な意見ですが、表紙の写真は一枚ものに迫力があり、出来れば山の風景や高山植物が読者をひきつけます。昨年度一枚ものは4枚ありました（2025.3-2026.2）。2026年度の表紙はどのような連盟行事や山仲間の山の風景や高山植物の写真飾るのだろうか。大阪府連のみなさんの積極的な写真の投稿を期待しています。